



[白浜、千倉] 1

関係人口
をつなぐ
【産業・教育支援】

空き公共施設活用プロジェクト

2017 南房総を活性化させるための再生案

2017 千葉工業大学シラハマサテライト校舎整備事業

2017-2019 千葉工業大学 シラハマ Lab. 出張オープンラボほか

実施者

＜教員 & 研究室＞ 2017-2019) 千葉工業大学創造工学部デザイン科学科 大嶋研究室 (代表：大嶋 辰夫 准教授)

＜学生＞ 2017) 千葉工業大学 工学部デザイン科学科 大嶋研究室 成田彩乃、輪島あさみ、千葉大生

2018) 千葉工業大学 工学部デザイン科学科 大嶋研究室 ゼミナール1 履修者

＜協働パートナー＞

【行政】 2017-2018) 南房総市市民生活部市民課 / 観光プロモーション課 / 一般社団法人南房総市観光協会

【企業等】 2017-2018) 合同会社 WOULDD (シラハマ校舎) / 2018) 株式会社 R.project (白浜フローラルホール)

背景と目的

1) 南房総を活性化させるための再生案 (2017 年度)

～地域活性化のためのワークショッププログラム～

本プロジェクトは南房総市に対して、「新しい雇用の創出」と「若者層の人口増加」、それらの効果による「地域コミュニティの活性化」を推進するものである。若者が夢をかなえるために起業を考えた時、事業として成立するか、環境を含め周囲の人々と上手くやっていけるのか…などの不安が壁となり、なかなか実行に移せないのが現実である。本プロジェクトの提案は、そのような若者を支援し、最終的には南房総市に定住し起業をするための応援施設を開設することである。

2) 千葉工業大学シラハマサテライト校舎整備事業 (2017 年度)

～空間の形成を補助するキューブの製作～

2012 年に閉校した南房総市立旧長尾小学校は 2016 年にシラハマ校舎として生まれ変わった。オフィスやショートステイ、レストランを含んだ複合施設にリノベートされた。今回はそのオフィスの一室を借りており、オフィススペース、さらにワーキングスペースの提案を行う。空間を作る際の前提条件としてこのオフィススペースは SAL という授業で使用されることとなっている。授業の一環で工作器具を使用する場合があるので、オフィスとワーキングスペースを兼用できるような空間づくりを目指す。

3) 千葉工業大学 シラハマ Lab. 出張オープンラボ & 合宿・研修会を誘致するための宿泊ガイドの制作 (2018 年度)

現在、地域創生活動のひとつとして、地域を活性化するためのワークショップやイベントを大学生中心で地域と交流しながら

行ってきた。しかしながら、これらに参加する学生は、研究室に配属された学生が中心であり、参加学生の広がりが期待できない。そこで、本プロジェクトは、多様な大学生を房総市に呼び込むための方法として『合宿・研修会を誘致するための宿泊ガイドの制作』を検討している。現在も観光協会が発行している『合宿ガイドブック』はあるが、本プロジェクトで計画しているガイドブックは、大学生が運営するクラブ活動・サークル・諸団体をターゲットとして、合宿・研修先を検討する際に必要な情報が掲載されているものである。

実施内容

1) 南房総を活性化させるための再生案

[主な実施場所]

白浜野島崎灯台周辺、(旧) 観光案内所

[内容]

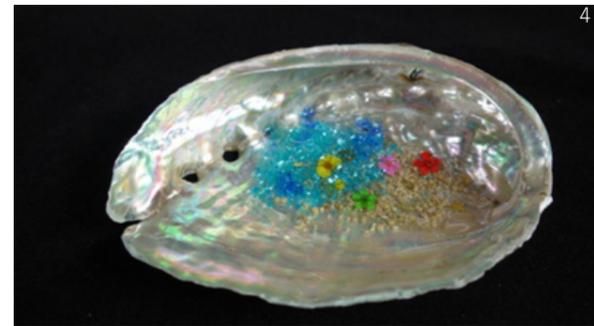
- ア. 南房総市および旧野島崎観光案内所周辺の基礎調査 (平成 29 年 6 月 11 日、40 名)
- ・市全体の地域特性と遊休施設の利用に関する実態把握。
- ・旧観光案内所周辺の実態把握。野島崎灯台付近に出店している飲食店・土産屋の店員に観光の現状に関するヒヤリング調査。
- イ. 旧野島崎観光案内所周辺ヒヤリング調査 (平成 29 年 7 月 7 日、4 名)
- ・野島崎灯台付近の観光資源、観光客・商工会等の現状についてヒヤリング調査
- ・旧観光案内所の新しい利用法の設計提案する資料作成のため



2



3



4



5

2、5 観光資源を用いたワークショップの様子 (2017)

3 旧観光案内所の外観

4 アワビの貝殻を使ったアクセサリートレイ

域学協働の工夫!

- ★地域の人たちとのテーマ以外の何気ない雑談が潜在的ニーズの把握に役立つ
- ★地元イベントを通じて、地域コミュニケーションに参加する
- ★子供向けワークショップは、地元小学校の教諭とプログラム内容を検討したい



の実測調査

- ・野島崎灯台付近に出店している飲食店・土産屋の店員に観光の現状に関するヒヤリング調査
- ウ. 旧野島崎観光案内所周辺観察調査 (平成 29 年 11 月 29 日、3 名)
- ・野島崎灯台付近の観光資源、観光客の現状について観察調査
- エ. 旧野島崎観光案内所 (平成 30 年 2 月 12 日、4 名)
- ・観光資源を用いたワークショップの開催
- ・観光客を対象とした野島崎灯台周辺に関するヒヤリング調査
- ・野島崎灯台付近の観光資源の発掘

2) 千葉工業大学シラハマサテライト校舎整備事業

[主な実施場所]

シラハマ校舎 (千葉工業大学・シラハマ Lab.)

[内容] ※主に現地調査

- ア. 南房総市および旧野島崎観光案内所周辺の基礎調査、シラハマ校舎調査 (平成 29 年 6 月 11 日)
- イ. シラハマサイト計測 (平成 29 年 8 月 8 日)
- ウ. 「キューブ」の組み立て (平成 29 年 11 月 29 日)
- エ. 養生テープ剥がし (平成 29 年 12 月 5 日)
- オ. 産学協働地域活力創造事業報告会で報告 (平成 30 年 2 月 24 日)
- カ. 千葉工業大学地域貢献プロジェクト報告会で報告 (平成 30 年 2 月 28 日)

[課題とコンセプト]

シラハマ校舎の立地は野島崎灯台の近くにあり、海が一望できる週末にはゆっくり過ごせる静かなリゾートのような立地である。施設の現況は教室を半分にした約 33 m²の小さな部屋である。

狭いことが他のオフィスと比べてデメリットであると考えられる。更に今回の場合はワーキングスペースも兼ねて空間を作らなければいけないことに留意する。コンセプトは、オフィススペースとワーキングスペースを可変的に両立させることとした。大きな机を複数人で囲んで会議だったり、同じ部屋で別々の作業をしたりと様々なパターンを想定しながら空間を作っていく。それを実現するために今回は 400 角の棚を作成した。この棚はシーンに合わせて自在に組み合わせられるように設計した。

3) 千葉工業大学 シラハマ Lab. 出張オープンラボのみ

[実施場所]

白浜フローラルホール、シラハマ校舎、野島崎 (旧) 観光案内所、千倉小学校

[内容]

- ア. シラハママーケット (3/31・6/16・10/13、シラハマ校舎) 児童向けの科学体験講座及びデザインワークショップ等を実施。各回約 50 人が参加。
- ウ. 小学生夏休み自由研究対策講座 (8/15・23・30、シラハマ Lab.・シラハマ FunBASE) 児童向けの科学体験講座及びデザインワークショップ等を実施。各回約 30 人が参加。
- オ. 集まれ未来の技術者! わくわくロボット体験講座 (12/1、白浜フローラルホール) 叩く体験・ドローン体験・ゲームプログラミング体験など。約 250 人が参加。



6 千葉工業大学 シラハマ Lab. 出張オープンラボ ～児童向けの科学体験講座及びデザインワークショップ (2018) ～の様子

成果と課題

●地域貢献面

1) 南房総を活性化させるための再生案

本プロジェクトの提案は、若者の起業を支援し、最終的には南房総市に定住し起業をするための応援施設を開設することである。具体的には、起業を考えている若者が、数ヶ月単位（1年以内）で本プロジェクトが提案する「お試しオフィス」を借りて、事業として成立するか、どのように地域と関わっていけば円滑なコミュニケーションが取れるか…などを実践・確認し、起業する地盤を確実なものとして若者の夢を叶える手伝いをする。

その結果、以下のような地域貢献が考えられる。

- ① 起業に伴う雇用の創出
 - ② 定住に伴う若者層の人口増加
 - ③ 地元商工会・祭りなどの参加に伴う地域コミュニティの活性化
 - ④ 「お試しオフィス」からの自立に伴う空店舗、空民家の有効活用
- また、若者の友人達が遊びに来た際には観光客となるだけでなく、南房総市の魅力を SNS などで発信することで、観光資源を広く広報することとなり、さらなる観光客が訪れることが考えられる。

2) 千葉工業大学シラハマサテライト校舎整備事業

3) 千葉工業大学 シラハマ Lab. 出張オープンラボ

一連の調査の結果、ガイドブックを通して大学生が運営する諸団体が南房総市で合宿・研修を行うことで、地域の宿泊施設・公共施設や観光施設のみならず、スーパー・コンビニなどの集客増が期待された。また、多様な大学生が地域とコミュニケーションを行うことで、今まで気づかなかった新しい魅力の発見や運営改善などに繋がると考えられた。

●教育・研究面

・学生にとって、実際の社会問題を知り、その実態を調査し、問題を発見してその解決方法を提案し、市民の皆様から意見を貰うことは、頭で考えた知識と現実の際を差異を知ることができ、

とても有意義で貴重な体験である。また、グループ作業を通して、自分の役割を理解し、仲間と協力しながら一つのプロジェクトを完成させたことは、将来、仕事を任せられた時の自信に繋がるものである。

- ・ガイドブック制作の為に大学生および地域に対するヒヤリング調査やニーズ調査の経験は、将来に必要な問題発能力や問題解決能力のスキルアップに有効である。また、ガイドブックを実際に制作することにより、制作プロセスや表現方法なども習得できることが予想される。

今後の展開

[シラハマサイトを拠点とした地域活力創造にむけて]

今後は「お試しオフィス」の実現化に向けた調査および検証実験を行う予定である。具体的には、調査・実験により、①地域の気づかれていない魅力の発掘、②地域資源の再確認、③市民・観光客の潜在的ニーズの理解、④地域資源を活用した起業の可能性の発掘を行う。その結果より、ワークショップの開催や地域イベントに参加して、実際に市民の皆様と観光客に企業に繋がる観光資源を体験してもらい、ビジネスとして成立するかの検証を行う。

[合宿・研修会を誘致するための宿泊ガイド制作にむけて]

今後、『合宿・研修会を誘致するための宿泊ガイド』の実現に向けて、①大学生が運営する諸団体に対して、合宿・研修施設を決定する際の手順と条件の調査、②今まで合宿・研修を行った際に感じた良いこと悪いことに関する調査、③大学生、地元の施設に対してニーズ調査、を行う予定である。また同時に、調査結果をもとにガイドブックの試作を行い検証を繰り返し、ガイドブックの完成度を高めていく予定である。



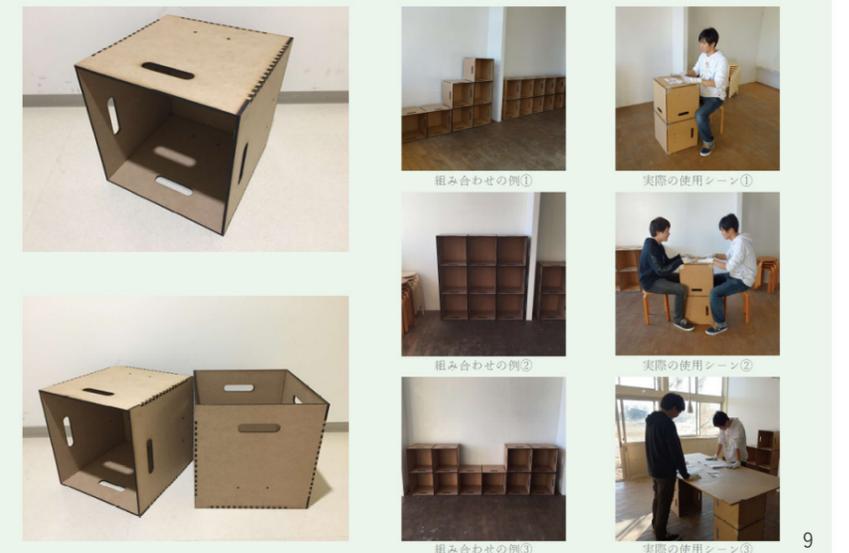
■シーンに合わせたレイアウト想定



■空間を作るキューブ

今回空間を作る上で大切なパーツとなるキューブを作成した。このキューブを組み合わせることで個人用の机やテーブル、低めの椅子として活用することができる。

キューブは400角になるように設計しているため重ねずらして使うことによって低い机として使用することができる。このため、大人用の机は二段重ね、子供用は一段で使うことができる。取っ手が付いているため中に資料を入れながら個人用の移動棚として使うことができ、フリーアドレスのオフィス利用や、簡易的なワークスペースを両立させることが可能になった。



*表彰・マスコミ掲載など

- ・2018年8月7日、房日新聞、「夏休みの自由研究に千葉工大が白浜地区で小学生に対策講座」、8月開催「小学生向け夏休み自由研究対策講座」
- ・2018年12月7日、房日新聞、「千葉工大が6講座 ロボット体験などに300人」、12月1日開催「わくわくロボット体験講座」
- ・2019年3月17日、毎日新聞、「科学実験に瞳きらきら 南房総・児童が受講」、3月16日開催「春のわくわくサイエンス講座」
- ・2019年3月17日、日本放送協会、「NHK首都圏ニュース」6:40 放映、3月16日開催「春のわくわくサイエンス講座」